

## ダイコン『晩々G』 の栽培事例

JA阿蘇小国郷中央所  
営農部 園芸課  
橋本健太郎

### 「晩々G」の栽培事例

熊本県JA阿蘇小国郷中央支所は九州のほぼ中央部に位置し、標高約400mの位置に町の中心があります。年間平均気温13～15℃で年間降水量は2,200～2,500mm、晩霜4月20日・初霜10月25日頃で、夏場の冷涼な気候を生かした九州を代表する高冷地野菜産地です。

主に小国町の大根は標高約500～800mの地域で栽培されています。大根栽培を始めたのが昭和30年頃からで5～6名の開拓農家が3アールから始め、その後機械化等によって、最大で部会員約80名までになりましたが、現在では少子化や高齢化・価格低迷などにより部会員は徐々に減少し現在25名になっていますが、それでも小国郷の野菜部会の中では上位の売り上げの品目です。

小国大根栽培は、春先の2月下旬～秋の9月下旬までが主な播種期間です



▲ 阿蘇郡小国町の新名所「田原の1本桜」

が、近年は春先の異常低温などによる気候変動により、大根の栽培が難しくなってきました。それでも5月中旬の価格が安定しているのが現状です。しかし低温時期が播種期になるため、収

穫期の抽苔が非常に大きな問題になっています。そんな中2年ほど前から試験栽培していました「晩々G」が、非常に抽苔安定していたため、本年から本格導入することにしました。



▲ 収穫前の「晩々G」の圃場



▲ 収穫途中の「晩々G」の圃場  
抽苔株はほとんどなし

今年の気候は、播種期の2月の温度が比較的暖かく播種作業も順調に行われましたが3月に入ると、低温・遅霜等異常気象が続き、他品種は収穫時期に抽苔したり、生育不良による品質の低下を招きましたがその中でも2月中旬から播種している「晩々G」は、ほとんど抽苔も無く収穫も65日～70日で収穫でき曲がりも有りませんでした。また、適期播種ではM～2Lサイズまで比較的形状はきれいで曲がりも

なく、生産者には根形がきれいでひげ根が細いと言う声が多く聞かれました。

やはり一番驚かれていたのは、晩抽性でした。先ほども言ったように、今年の3月の天候は例年の中でも異常に寒かったです。2月は比較的暖かった為、播種作業は順調に行われました。そのため他品種は抽苔の発生が多く見られ、出荷の出来ない圃場も多く見られました。

「晩々G」を栽培している生産者が

15戸ほどいましたが、抽苔が見られた農家は15戸中でも2戸で、圃場の中で抽苔を確認したのは1本～3本ほどでした。この結果には播種をしていない生産者も驚かれていました。また、栽培された生産者は「晩々G」の極晩抽性と品質の良さに絶賛していました。

来年は「晩々G」の極晩抽性を生かした栽培で、青果用・加工向けに管内の大根作付け面積拡大を計画しています。



◀ 箱詰め前の「晩々G」



▶ ひげ根細く、品質良好